

第四段 (p195 8行目～p196 終わり)
コンピューター

確実な (① 前提条件) から既に確立した (②ルール) に従って、論理的な (③演繹) を積み重ねていく。

← 新しいものを生み出せない。
(④創造)

(④創造) 的な人

(⑤未知) のものへの好奇心
誰も見たことのないものを創り出す

(⑥創造の (⑥醍醐味))
(例) ライト兄弟 (⑦飛行機) を発明

「創造」とは

それがなかった状態

← ジャンプ・・・めくるめくような (⑧未来) 感覚

それが出現した状態
(⑤未知) の世界 (↑何が待っているかわからない)

問題

問1 本文は「創造」の醍醐味に触れ、それを支える感覚を説明している。

(①) (⑧) に本文中から適当な語句を抜き出して答えよ。

問2 「演繹」(p195 10行目)の読みと意味を確認し、対義語である「帰納」の読みと意味も調べよ。(キーワード p101参照)

「演繹」(読み えんえき)

(意味) 一般的法則から個別の結論を導き出すこと。

「帰納」(読み きのう)

(意味) 具体的な事例から一般的法則を導き出すこと。

問3 「醍醐味」(p195 15行目)の読みと意味を確認しなさい。

「醍醐味」(読み だいがみ)

(意味) 物事の本当の面白さ 最高の味わい

問4 「ライト兄弟」(p196 1行目)はどういうことか例として挙がっているか。誰も見たことのないもの、今まで出現したことのないものを創り出すこと。

問5 「めくるめくような「未来感覚」とは、具体的にはどのような感覚か。まだ見ぬ未来に対して、不安と期待が入り交じった、めまいをおこすような感覚

問6 この文章全体を通じて、筆者はどういうことを読者に訴えようとしているか。

不確実な状況下でも、感情に支えられた直観で判断し、行動を起こすことで、創造につながる、めくるめく感覚を体験してほしい。